

授業評価 2015 (前期) T1R: 工学部電気電子工学科

syll mkjhytex.pl Ver 2.79(2015-09-11) by Yas

2015 年度前期 工学部電気電子工学科 授業評価 目次

授業コード	授業科目名	開講時限等	担当教員	ページ
T1R004001	電磁気学 II および演習	2 年前期月曜 1 限 / 2 年前期木曜 1 限	早乙女 英夫	T1R 1
T1R007001	回路理論 I および演習	2 年前期金曜 3,4 限	佐藤 之彦	T1R 2
T1R010001	確率基礎論	2 年前期水曜 4 限	岡本 卓	T1R 3
T1R020001	複素解析演習	2 年前期火曜 3 限	中田 裕之	T1R 4
T1R025001	科学技術英語	3 年前期水曜 3 限	高橋 秀夫	T1R 5
T1R040001	情報理論	3 年前期月曜 3 限	岡本 卓	T1R 6

授業科目名	: 電磁気学 II および演習
担当教員	: 早乙女 英夫
年次・開講時限	: 2 年前期月曜 1 限 / 2 年前期木曜 1 限
授業コード	: T1R004001
授業アンケート	: 回答者数 41 人 / 受講者数 90 人 (回収率 46%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q1. この講義のシラバスについて、該当するものを全て選択して下さい。(回答 41 件)

内容がわかりやすかった : 46.3 %

上記結果から、概ね学生の理解が得られる授業となっていることがわかる。

Q5. 板書, OHP, スライドなどは、見やすかったですか? (回答 41 件)

はい : 56.1 %

ややそういえる : 19.5 %

上記結果から、概ね学生の理解が得られる授業となっていることがわかる。

Q11. 授業内容の量を考慮すると、進度は適切でしたか? (回答 41 件)

はい : 53.7 %

ややそういえる : 24.4 %

上記結果から、概ね学生の理解が得られる授業となっていることがわかる。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

講義中の学生の私語がなく、授業に集中できる環境とのコメントは毎年あり、今後もその環境作りに努力したい。また、質問や学生間の授業内容の確認のための時間を設けている点も評判がよい。

3. その他のコメントや連絡事項

本科目は必修科目であり、受講生全員が合格しなければならないので、全員が授業に集中でき、理解が不足している点などの質問や確認ができるよう、講義の環境作りに対する受講生全員の協力が必要である。

作成 (者): 早乙女英夫

授業科目名	: 回路理論 I および演習
担当教員	: 佐藤 之彦
年次・開講時限	: 2 年前期金曜 3,4 限
授業コード	: T1R007001
授業アンケート	: 回答者数 37 人 / 受講者数 94 人 (回収率 39%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q29. この授業で良かった点について記入してください。(回答 6 件)

演習問題の回答状況を次回の授業に反映させている点や、演習問題の回答を moodle に掲載している点については、支持する声が多い。次年度以降も継続したい。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 7 件)

教科書が分かりにくく、内容が多岐にわたりすぎていることについて問題視する声があった。担当教員としてもそのことを認識しており、次年度に向けて教科書を変更するか、独自の教材を作成するなどの改善を図ることとしたい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

全体として、肯定的な評価をもらうことができ、ひとまずよかったと考えている。教科書の分かりやすさの問題など、改善すべき点があるので、次年度に向けて改善を図りたい。また、全般に授業中は静粛が保たれていたと考えているが、一部に私語が目立つ学生がいたとの指摘もあり、さらに一層の勉学環境の確保にも意を払いたい。

3. その他のコメントや連絡事項

多くのことを不十分な理解のままやみくもに詰め込んでも何の役にも立ちません。本質的なことに絞って、徹底的に理解し感覚を養うことが、実際の応用に役立つ知識や能力になると考えています。そうした勉学姿勢を誘導できるような授業を展開していきたいと考えています。

作成(者): 佐藤 之彦

授業科目名	: 確率基礎論
担当教員	: 岡本 卓
年次・開講時限	: 2 年前期水曜 4 限
授業コード	: T1R010001
授業アンケート	: 回答者数 44 人 / 受講者数 108 人 (回収率 41%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 42 件)

5 段階評価で、昨年度の 4.13 点から 4.55 点に改善した。

担当 2 年目で、昨年度の修正点を反映した結果、資料の完成度が高まったことが原因であると考えられる。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 40 件)

5 段階評価で、昨年度の 3.26 点から 3.88 点に改善した。

資料の完成度の上昇に加えて、講義内容の整理もついたことが原因であると考えられる。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 41 件)

5 段階評価で、昨年度の 3.71 点から 4.37 点に改善した。

上記 2 つの項目での高評価が原因であると考えられる。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

1. で記したように、授業理解と講義の進め方に関する KPI (Key Performance Indicator) で昨年度からの改善が見られた。他の評価項目においても、概ね高い評価を得ている。

自由記入項目では、授業中のたとえ話や試験問題に対する好評化が多かった。一方で、演習問題の量を増やして欲しいというニーズもあったので、この点は来年度以降の改善点としたい。

3. その他のコメントや連絡事項

確率という分野は直感的に理解しづらい部分が多く、数学的にも難易度が高い部分がある。また「基礎論」である関係上、ある目標に向かって講義を進めるのではなく、確率論についての各論に終始してしまう部分があり、授業全体を通した納得感が少ない科目でもある。

一方で、ビッグデータの統計的解析や再生可能エネルギー導入によるエネルギーシステムの不確実性増大など、電気電子工学として確率の素養は今後一層求められていくと予想されるので、本科目は重要な科目になっていくだろうと考えている。

今年度は昨年度に比べて高評価を得たが、今後もできるだけいろんな例を取り上げながら授業内容の改善を図っていきたい。

作成 (者): 岡本 卓

授業科目名	: 複素解析演習
担当教員	: 中田 裕之
年次・開講時限	: 2 年前期火曜 3 限
授業コード	: T1R020001
授業アンケート	: 回答者数 36 人 / 受講者数 96 人 (回収率 38%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q8. Q7 の評価が「はい」でない場合、その原因に該当するもの全て選択して下さい。(回答 5 件)

「いつまでも話をしていたり授業以外のことをしている学生が目障りだった」という意見も述べられていた。小テスト中に違うことをしている学生などは折りにふれ注意もしているし、話し声がうるさい場合も注意をしているが、解説中の別作業については、今後気をつけていきたい。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか？ (回答 35 件)

昨年とほぼ同様に満足してもらえたようで、担当教員として、うれしく思う。演習時間が少ないという意見も出ていたのだが、これでも多少は時間を増やしたのだが、それでも演習時間はすくないという意見が多かった。演習問題の解説もしているため、時間が少なくなるのは了解してもらえるとありがたい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

演習時間が少ないことについては、成績への影響を懸念する向きもあるためだと思われるが、小テストの出来は、成績への影響はそれほど大きくないため、まずは問題の理解を深めるようにして欲しい。小テストの採点は、出来そのものよりも、どの程度考えて問題を解いたかを評価するようにしており、途中ミスの多い結果よりは、白紙で出されたもののほうが点が悪いと思って欲しい。

3. その他のコメントや連絡事項

15-110 は臭いとの意見があったが、最近では教室で昼食をとる学生も多く、3 時限は昼休み直後であることもあり、匂いが気になることは個人的にもあった。これは演習の問題でなくて、学校全体で考えないといけない問題であると思う。

作成 (者): 中田裕之

授業科目名	: 科学技術英語
担当教員	: 高橋 秀夫
年次・開講時限	: 3 年前期水曜 3 限
授業コード	: T1R025001
授業アンケート	: 回答者数 10 人 / 受講者数 19 人 (回収率 53%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 8 件)

本授業で使用した教材は米国コロラド大学工学部の実験室紹介、音響学の講義を扱った光学系学生のための CALL 教材である。回答者 8 名中 7 名が「はい」と回答 (平均 4.88) していることは教材が学習者の英語力向上に大きく貢献できたと判断する。

Q11. 授業内容の量を考慮すると、進度は適切でしたか? (回答 8 件)

15 回の授業では、語彙の小テスト 9 回、単元別テスト 4 回、実力テストが 2 回あり、学習量、進度ともに決して緩やかなものではないが、平均 4.88 の評価を得ていることは、CALL 教材とともにそれを利用するためのカリキュラムが評価されたものと考ええる。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

本年度の学生はまじめに、熱心に学習に取り組んでくれた。心から感謝したい。

3. その他のコメントや連絡事項

決して「楽勝」科目ではないが、英語の実力を上げ、TOEIC の得点に反映させたいと考える学生諸君の履修を強く勧める。

作成 (者): 高橋秀夫

授業科目名	: 情報理論
担当教員	: 岡本 卓
年次・開講時限	: 3 年前期月曜 3 限
授業コード	: T1R040001
授業アンケート	: 回答者数 29 人 / 受講者数 94 人 (回収率 31%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 27 件)

5 段階評価で、昨年度が 4.72 点、今年度は 4.74 点と高評価を維持した。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 28 件)

5 段階評価で、昨年度が 4.18 点から今年度は 3.93 点へと漸減したが、依然として高い評価であると考えられる。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 28 件)

5 段階評価で、昨年度が 4.28 点、今年度は 4.25 点と高評価を維持した。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

本授業では、千葉大学 moodle で公開する講義資料 (授業中に穴埋めできる形式) を準備の上、授業に参加してもらう形式で授業を進めている。

授業評価では、とくに授業の取り組み方に関する Q2(4.74)、Q3(5.00)、Q5(4.96)、Q9(4.36)、Q11(4.64) の評価が高く (カッコ内は 5 点満点中の得点)、授業への取り組み方に関しては、受講生の満足度が高かったと考えられる。その結果として、理解度評価に関する Q15(3.93) と満足度評価に関する Q16(4.28) の評価が高くなったと考えている。

Q29 の自由記入欄では「自分で教科書を見て勉強をしたときの理解にかかる時間が短くなった」という評価があり、講義資料の準備による狙いが達成されていたと実感できた。

3. その他のコメントや連絡事項

昨年度に引き続き、これまで担当していた科目のノウハウを活かして講義資料を準備した結果、概ね高評価を得たと考えている。来年度以降も高い評価を得るように努力していきたい。

作成 (者): 岡本 卓